

総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 会 令和2年10月29日 午前 9時30分
- 2 閉 会 令和2年10月29日 午前11時07分
- 3 場 所 保健センター2階 教養研修室
- 4 出席又は欠席した委員
出席委員
教育長 久 山 延 司
教育長職務代理者 上 岡 仁
委 員 三 宅 眞砂子
委 員 児 島 塊太郎
委 員 大 山 敬 子
委 員 剣 持 江利奈
- 5 会議に出席した者
教育部長 服 部 浩 二
学校教育課長 井 上 徹
こども夢づくり課長 小 野 玲 子
教育総務課長 浅 野 竜 治
教育総務課主幹 前 田 英 子
- 6 会議録署名委員
久 山 延 司 三 宅 眞砂子
- 7 付議事件
議案第25号 教育委員会職員の処分等について 原案可決
- 8 議事の概要 別紙のとおり

【開会 午前9時30分】

久山教育長 ただいまから教育委員会を開会いたします。この教育委員会には、追加議案1件が付議されておりますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第16条の規定により、私のほか、出席委員中、三宅委員にお願いします。

それでは、議案第25号「教育委員会職員の処分等について」事務局から説明願います。

【事務局説明】

久山教育長 ただいまの説明で何かご質問等はありませんか。

【質疑】

それではお諮りいたします。議案第25号について可決してよろしいか。

(異議なし)

久山教育長 それでは原案のとおり可決しました。

次に、教育長報告ということで何点か報告をさせていただきます。

まず、「指定管理(中央保育所、総社はばたき園、放課後児童クラブ)候補者の選定結果について」事務局から説明をお願いします。

小野こども夢づくり課長 それでは資料「指定管理候補者の選定結果について」をご覧ください。こちらの資料は、指定管理選定委員会委員長から総社市教育委員会への答申でございます。指定管理の選定委員会の第1回目を7月30日に開催しまして、選定方法を設定いたしました。今回は、中央保育所・はばたき園・放課後児童クラブの3つの案件です。はばたき園と放課後児童クラブにつきましては再指定ということになりました。中央保育所については公募になりました。中央保育所は8月20日に募集要項を配布いたしまして市のホームページにも掲載しております。9月7日を締め切りとした結果、今現在管理運営をいただいております社会福祉法人の総社福祉会のみから応募がありました。9月29日に2回目の選定委員会を開催し、総社福祉会からのプレゼンテーション・質疑の審査・書類審査の結果、再指定と決定いたしました。はばたき園につきましては現施設を運営するために設立された法人であるということと、運営には障がい福祉の専門的知識が必要ということで再指定となっております。条件を一つ付けさせていただいているのが、今後、人事交流を行って欲しいというお願いをしています。それから放課後児童クラブにつきましては地域からの要望により設置された施設であるということで、条例上も地域住民で組織された団体とされているため、公募に適さないということで再指定としております。以上でございます。

久山教育長 何かこの件につきまして、ご質問ご意見はありませんか。

上岡委員 人事交流は、例えばこういったところと交流を想定されているのですか。また、恐らく監査されると思うのですが、監査は毎年ですか。多分毎年でしょうけれど、同じ監査組織でされるのですか、それとも第三者でされるのですか。これは市長が指定して、最終的にはその賛否は議会の承認を受けるのですか。

小野こども夢づくり課長 はい。人事交流につきましては、今の段階では社会福祉協議会を考えております。はばたき園の職員は保育士が多いので、例えば認定こども園ですとかも候補としては挙げられると思いますが、今のところは社会福祉協議会へお願いしようと思っています。監査は毎年やっております、県が主導で行い、こども夢づくり課の職員が同行するようにしています。指定管理は11月の議会で議決をいただく運びとなっております。

久山教育長 他にこの件でございせんか。

(質疑なし)

久山教育長 それでは、次に「GIGA スクール進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

井上学校教育課長 それでは、GIGA スクール構想の進捗状況についてご報告させていただきます。GIGA スクール構想の全体の進捗につきましては、年を明けてから実際に運用できるようにということで、ハードウェア環境につきましては年内12月末までに完了を目指して、今、取り組んでいるところです。通信環境、ネットワークにつきましては資料をお配りさせていただいておりますが、既にブルーのところは工事が完了しているところです。グリーンのところ（お配りした時点です）が、今後、整備していくところで12月21日までかけて整備を行って参るところです。端末につきましては、かなり全国的に引き合いが多いということで間に合うかどうかの心配もされたのですが、現在のところ12月18日、2学期中に整備が完了する予定です。この端末を全て電源が付いたキャビネットの中へ入れて教室等で保管をします。この電源キャビネットも12月上旬には全て学校へ設置できる予定です、今、準備を進めているところです。その他に、これをどのように運用していくかにつきましては、今後、市としての研修も計画しております。また、現在、県の教育委員会でGIGA スクール構想の説明会・研修会が複数回実施される運びとなり、これに各校及び教育委員会事務局の職員が出席して、このGIGA スクール構想の実現に向けて、今、取り組んでいるところです。以上です。

久山教育長 ハード面は大体予定どおりというか、当初の予定より物凄く前倒しで、今年中に設置がほぼ完了することとなっておりますが、後はソフト面です。教員の理解、それから子どもにまでということになると、随時、少しずつやっていくような形になり、ある程度の期間がかかると思います。それから、よく言われるのが、もし臨時休校になったときにこれがオンライン授業で活用できるのかということですが、これも想定しながらやってはいるわけです。まず基本的な使い方が分からないとそれもなかなかできないので、今年中に市として、研修会とか分かりやすい資料の作成などを急いでしなければならない状況であります。昨日、県の教育長会議があったのですが、どこも同じような状況です。ハード面はなんとかなってもソフト面は、研修をどういった形でするのか、かなり苦慮しています。現時点ではこういう進捗状況です。何かご質問がありましたらお願いします。

上岡委員 今、新本小学校で新しい試みがされていると思いますが、進捗状況を教えてください。

井上学校教育課長 新本小学校は臨時休校のときには実際にオンラインを使って授業を実施しておったのですが、現在は実施しておりません。進捗となると研修を通してモデル校を新たに指定するのか、それとも新本小学校を指定するのかといったところも含めて、実際に機器が入って子どもたちの手元に渡って、先生も実機に触れながらできるような環境が整ってから更に再スタートを切りたいと思っています。

上岡委員 現時点の普段の教育活動の中での取り扱い（利用）はどうなっているのですか。他の学校と同じですか。

井上学校教育課長 はい。他の学校と同じです。

上岡委員 分かりました。

久山教育長 新本小学校は、休校だった時には児童が10人くらいの環境でリアルタイムに教員とのやり取りで授業をしたということです。実際問題、実施する場合には、大規模校で学校の規模が大きかったら30数人くらいの対話になります。それで効果が上がるのかというと非常に難しいです。方法としては、もしそうなったら模擬授業的に教員が学校で授業をして、その動画を流すような形の方が分かりやすいのかなと思います。前後は、例えば朝の会とか帰りの会では健康観察も必要だし、実際にリアルタイムでのやり取りは重要なのかなと、それはできるようにしておかないといけない。全部リアルタイムのやり取りというオンラインでは。

上岡委員 運用というのは今言われたようにかなり効果的にできています。

久山教育長 そのあたりの研究というか、もし休校になったらこういうふうにするということも、先程申し上げたことをベースにしながら考えていかないといけないです。県は県立学校については今言ったようなことを考えているようです。短時間で研修というか理解を進めていかないといけないから中々大変です。他に何かご意見ご質問はございませんか。

大山委員 研修を進めていくのは、皆同時に全職員が研修をして理解というか知識を高めていかないといけないと思うのですけれども、やはりリーダーシップをとる人、そういう分野に長けているというか、そういう方が学校の中に居るか居ないかって凄く大きな部分だと思います。大学でも、学部でたった1人、その方が夜を徹して整備していったものに乗って行って、やっとできていたオンライン授業でした。ですので、最初の頃は、その教員が居なかったらオンライン授業が上手くないかない、そういう感じでした。そんな大学ばかりではないと思いますけど、やはり小・中学校の現場もパソコンで困ったら常に頼れる人がいるかどうかの不安があります。頼れる人が居るかどうかというのは、人事配置の問題もあると思います。中学校だと技術の先生だとか数学の先生とか得意な方もおられますが、そのあたりの不安感（不安の声）は無いですか。

井上学校教育課長 情報教育(ICT)の担当者は、かつては自身がスキルを身に付けておくことが、かなり求められました。きっとそれは10年以上前のことだと思います。ただ、今、私どもが考えているのは、そのスキル、専門的知識・技術を持った人、これは外部の人も想定していますが、その人に必要なことを説明できる、例えば、ICTを使ってこんなことがで

きるようになる必要があるとか、要はその部分は教育の専門家では分からない部分なので。今、各校にいる情報教育の担当者は、必要な技術を持った人に、そのニーズを説明できて環境を整えるために最低限の知識を持っている人が情報教育担当者に必要だということで、少し考え方が変わってきています。きっと大学には専門的なスキルも全部持った方がいらっしゃるのかもしれないですが、中々学校現場にはそれだけの人材は居ません。例えば、今、GIGA スクール構想の中で言われている GIGA スクールサポーターが、3校に1人、4校に1人居ること。それは教育委員会が配置していくこと。我々に何が必要かの説明を受けて、それを業者に説明してその環境を整えていく。市内19校、特に中学校はそういうスキルを持った人が多いというのは承知しています。小学校にはそれだけの人材は中々居ないです。そういったところを補いながらやっていきたいとは思っています。

大山委員 分かりました。サポーター的な支援の方が、ソーシャルワーカーとかは別の領域で入ってくださっていると思いますが、それと同じ感覚でサポートする外部の専門家を配置するような構想があるかどうかということが知りたかったので。

井上学校教育課長 現状は小学校15校に3人。総社市はかなり早い段階で ICT サポーターが3人居るのですが、GIGA スクール構想になると中学校もサポートしないといけないので4人は必要です。教育委員会事務局にも ICT の会計年度任用職員が1人居ます。プラス授業で ICT をどう使うか分かる指導主事が必要になってくるので、これらがチームで対応していくようになると思います。

大山委員 ありがとうございます。

久山教育長 学校以外の、教員以外のサポート体制の計画をしています。ただ、学校の中のスキルを上げていく。当初はそういうサポーターに頼らざるを得ないと思いますが、教員のスキルを上げていく、毎日の授業で使うわけですから。

大山委員 授業とリンクした使い方ができれば。

久山教育長 そういう計画にはしていこうと思っています。

大山委員 ありがとうございます。

久山教育長 他にございませんか。

(質疑なし)

久山教育長 それでは次に「昭和(五つ星)義務教育学校について」ですが、課長がおられませんので私から状況を説明いたします。

4月か5月に、五つ星学園の東学園長から説明が教育委員会にあったと思いますが、それを進めていこうとしています。義務教育学校にしていくということです。中学校の1～3年生に加えて維新小・昭和小の5～6年生を中学校へ持って行き中学校5年制のような形で中学校の校舎で学習する。そして1～4年生は維新小の子どもが昭和小へ行く統合形です。幼稚園は昭和幼の子どもが維新幼へ行く。こういう形、またその逆、というのが1案・2案です。それに加えて検討したのは維新小・昭和小の1～4年までをそのまま残し、5～6年は中学校へ。そして、幼稚園と1～4年を合体。これも候補に加えて検討していました。色々

なメリット・デメリットがあり、取りあえず当面は住民の理解を得やすいように、まずは段階的にやっていくのが良いのではないかと私自身は思っていました。ところが県教委にそういう構想を、今、少し考えているのだという話をしましたら、教員の定数が義務教育学校になると1校分になります。1つの学校になっても中学校の教員定数というのは学級数によって決まりますので、中学校の定数は中学1~3年の学級数で考えます。小学校は分離していても合わせたときに40人超えなかったら1学級です。そうすると別々に授業をしても1学級としての教員定数になるということです。こういうことが分かりました。別々にしているという実態があったら、それに応じた教員定数で配当をしてもらえないかと言いましたが、法律上難しいということでした。そうすると1~4年が30人ずつでしたら4人は教員が不足することになります。あの規模で4人不足したら、学校が成り立っていかないという状況になります。加配ということもあるのですが3人も4人も一つの学校に加配した例はありませんので中々難しいかと思えます。それから、もう一つは、全部昭和地区にまとめてしまう。児童数からいくと将来的にはそうやっていくのかと思えます。昭和地区にまとめてしまうということも視野に入れたいといけないということもあります。そして、今、PTAの保護者にはアンケートをしています。賛否両論色々なご意見がありますが、多くは幼稚園もですけど小学校がある程度の適正規模ということで何らかの統合はやむを得ないだろうと。具体を書いておられる人も居ましたが、何らかの形の統合はやむを得ない、そうしないと子どもの教育にとって良くないだろうという意見はありました。中には現状維持が良いという方もおられました。維新小は学年がゼロという年も出て来ます。そうすると、何らかの統合を急がないといけないと思っています。統合した場合には登下校の問題があります。バスを出すとか。今、「おひさま」にかなり委ねてお世話になっているのですが、市としても登下校についても考えなければいけないかと。これから本格的にそれを進めようと思うのですが、11月7日(土)に、まずは中学校1人・小学校2人・幼稚園2人の5人のPTA会長さんにお集りいただいて、私や校長も入って協議をします。そこからスタートしようと思っています。それから、地域づくり協議会の代表の方などにもお話を個々にしていき、ある程度の方向性が定まると、地域ごとの説明会もしていかないといけない。そんな状況です。スケジュールとしては、最速2022年から。少し苦しいと思っています。維新の人数は少ないですが、地域の方が協力的で物凄く色々なことで学校へ入ってくださっています。それが、学校にとっても助かっているし地域の方にとっても生き甲斐の一つになっている、そういう地域性もあります。困難な状況もあると思うので、一つずつ解決していかないと今のままでは子どもにとって良くないのではないのかと思っています。そんな状況が五つ星学園です。義務教育学校にとられる必要はないと私は最近思っています。いわゆる、小中一貫校です。統合した場合、今の義務教育学校にすると、1中学校と2小学校が一緒になって一つの学校になりますから校長が1人です。当然規模から言って教頭も1人。それで3校分になる。それより小中一貫校で、小中別々の小中一貫校という方法もあるのかと。色々な形態は考えられますから義務教育学校をベースにしながらも多角的に考え

て行かなければいけないと思っています。現在の進捗状況はそういうことです。何かご意見ご質問がありましたら、是非この件についてはお願いします。

三宅委員 関係ないかもしれないですけど、子どもが減っていつているということで1学級の人数を減らす方向で文科省が答申を出していますけれど、実現性とかありますか。

久山教育長 今のところ中教審の答申で、特にコロナのときだったので35人・30人学級に。今は、小1・小2が35人学級、後は弾力化と言いまして教員を加配することで40人学級を35人学級にしても良いという状況です。殆どは35人学級ですが、それを30人学級にするとかも出ています。これは、直ぐには進まないのではないかと思います。と言うのは、学級数を増やすことは施設が要ることになります。全国的にそれをしていくとなると、ここで言うと常盤小学校や総社小学校は30人学級にしたら学級数が増えて教室が足りなくなりますので、直ぐには難しいと思っています。そんな状況です。

三宅委員 生まれる子どもの数が、少し前までは100万人と言われていたのが今は80何万人とか言われています。総社市は、ここ4～5年はあまり減らないとこの前伺ったのですが、そんなことも見据えていくと将来子どもたちはもっと少なくなるので、少なくする必要があります。

久山教育長 三宅先生、核心のところをおっしゃってくださったのですが、総社市は今後どうなっていくのかと言ったら、大きいところがより大きく、小さいところはより小さくなっていきます。特に人口推計、これから10年先20年先の大まかですが人口推計を出しています。そうするとやはり常盤小学区・中央小学区の西中学区、総社小学区・山手小学区・東小学区の東中学区、この辺りは人口がこれからかなり増えます。特に常盤・中央は相当増える予測です。ところが周辺部分の小規模校はもっと減っていきます。と言うことはバランスをとらないといけません。30人学級にしても多くの学校は影響がありません。既に30人以下ですから。だけどその影響は一定の学校に集中してあります。それをいかに、せめて市内でバランスをとっていかかです。実はこの五つ星学園義務教育化もその一つの方策でもあります。周辺部分に何とか子どもを集めそこへ行かせる。10人でも動くとある程度調整できます。それで追いつくくらいの増え方なのかと言ったら少し難しいかもしれないですけど、少しずつでもバランスを取っていかないとあまりにも極端になります。総社小・常盤小・西中・東中の規模は岡山県内でも岡山・倉敷以外にはありません。この7万人の市の4校が多くてその他が少ないという状況です。

児島委員 それを平均に言ったら、家を建てるとかを重点的に、市の政策でここが減っているからここへ家を建てるように市が率先して住宅地を造っていく、そういうことをしていかないといけない。山手のこっちは空き地がどんどん無くなっていきます。家を建てておられるのは若い人ばかりです。山手小学校はこれからどんどん増えるでしょう。それを考えないと、減るところはどんどん減ります。家が建たないから。

久山教育長 現在の中規模校・大規模校がぐんと増えて小規模校は減る。周辺部分は現在居る人も出て行っている状況です。これは教育だけではできないです。政策と直接関わって

ることなので。

児島委員 それから五つ星もですけど障がい者に厚い総社市ということで、やはり親御さんたちが子どもの将来を思ったら総社市へ家を建てられる。親だったら誰だってそう思います。自分の子どもの将来を考えたら、そういう人たちに手厚いところを選びます。総社市の目指すところがそういうところですから。子どもが段々多くなる。問題も増えるかも分かりませんが。

久山教育長 平均化していくためには、周辺部分の小規模校に特色というか魅力が無いといけません。もちろん家を建てるといってもそうですが、特区に指定しているところは学区外でも行けるわけですが、そこに魅力が無いと行かない。ということで、教育委員会としても英語特区をしっかり進めていく。それから音楽・体育も特色を出していく。それぞれ頑張ってくれています。例えば、山田幼稚園の運動会に行ったら幼稚園でも良い発音しています。幼稚園児が英語で喋るのでびっくりしました。そういうところで毎日英語を使って喋れる、中学生でも中々喋れませんからそういうことが特色として保育にもっと出てくると違ってくると思います。後、PRの仕方です。良い教育をしても知らせないとそこへ行くとしらないからPRの仕方も工夫していかないといけないと思います。

児島委員 この間、桜を植樹した小学校。

久山教育長 神在小学校。

児島委員 歴史的にも古いではないですか。備前焼の二宮金次郎が建っています。そういう歴史ある小学校をもっと子どもたちの教育にどんどん使っていく。やはり二宮金次郎、終戦前に色々取りあげて変な考えを持つ人もいるけれど、決して二宮金次郎さんが悪い人であるわけではないので総社市教育委員会が学校教育にも二宮金次郎をどんどん使っていく、そういうのも僕はあっても良いのではないかと思います、魅力として。僕はあれを見てびっくりしました。備前焼であれだけのものって、そうそう見たことがない。何か小さいのはたまにあります。あれはやはり大切にしないといけないと思います。

久山教育長 今ある資源というか、昔からの資源を大切にできていないということは確かです。

大山委員 先程、山田幼稚園の園児は英語の特区で素晴らしいと思うのですが、山田幼稚園は地元の子は殆どいないみたいです。

久山教育長 10人中4人です。

大山委員 本当ですか。

久山教育長 はい。

大山委員 そうやって特区として来るといっても一つの方法ですけど、やはり根付くことを考える。農業推進の、制度の名前が分かりませんが、何十年間かは家が建てられない、田は沢山あるけれども荒れている、さっき言われた教育だけではない住みつくというそっちの制度にメスを入れていかないと無理かなと思います。

児島委員 無理だね。

大山委員 後、何年間かは家が建てられないから戻ろうにも戻れないという若者の声も、たまたま2件ほど聞いたので。戻りたいけど、自分の親の土地なのに何年かは建てれない。

久山教育長 調整区域ですか。

大山委員 凄いネックになっています。

久山教育長 我が家も確か調整区域で、家を建てるのに苦労しました。それこそ法律的なことで簡単には外れないでしょう、国が決めているのか。

前田教育総務課主幹 圃場整備とかをしていると何年かは農振を外すことは、国の制度で難しいです。農振地域ですと、まず農振除外をして、その後、農地転用という形になります。圃場整備しているところの農振除外・農地転用は難しいです。

児島委員 国が減反政策をやっているのに、農業もしないので草ぼうぼうになって藪になる。それをやるなら家を建てた方が良いでしょう。

久山教育長 直面して初めてその大変さが分かりました。中々難しい問題です。長期で決めているから、その間に時代や環境も変わっているのに法律だけ残っているから合っていないです。そういう問題があります。そのあたりも含めて、学校だけの問題では無いです。都市計画ですか。

児島委員 総社市の教育委員会で子どもを受け入れますよと市長が手を挙げて、農地を住宅に替えますとか何か言ってくれば良いのに。

上岡委員 それは1回市長が県か国へ要望されていました。その権限を市に貰えないかということをごどこかへ言われていましたよね。

久山教育長 県大前辺りのことで。

服部教育部長 それは開発をしたいために規制を外すという考え方ですけれども、今、議論になっているのは有効に活用できるか、特に周辺部の土地を移住とか人口確保のために使いたいというところまでは、まだ議論が深まっていないです。それこそ今日お話に出ているようなことは多分これからも土地の使い方の一つ、現状の法律を見直す部分として何か議論されていくと思います。

上岡委員 義務教育学校ですけど、確かにそれぞれの学校が無くなり一つになったら、先生も学級数の関係で少なくなるのかも分かりませんが、だからこそやっていただきたいと思います。新しい教育にも挑戦できますし、それが特色になるだろうし、子どもたちにも色々な力が付けられる環境を提供できるのではないかと思います。去年南丹市へ視察に行かせていただいたら、正にそういうところでした。どこも小さくなって70人の学校になり、それでは子どもたちが育たないだろうと言われた。確かに先生は少なくなって学校も無くなるのだけど、結果的に自分が住んでいた町をもう一回見直して、その良さを発信し合いお互いを地域全体で分かり合えたりして良いことが多かったようなことをおっしゃっていました。やはりコーディネーターとか色々な方の活躍があつて、それができたのでしょうか。だから昭和地区だったらできるかと、そんなことを思いました。地域の方が指摘されて考えてくださってそこまで意識が行っているのなら。秦小学校も今はもっていますけど、後

十何年かしたら同じような感じになるでしょう。そうしたら学校をくっつけて義務教育学校にしてしまうというのも一つの方法かなという感じがします。そこで特色を出していただければ良いわけです。議論をしていただければと思います。

久山教育長 そうですね。これに関しては継続的に議論して、随時、進捗状況とか報告します。課題はすぐには無くなりませんし、方向性もすぐには定まらないと思うので、これから毎月の教育委員会でご報告しご意見をお聞きしたいと思います。教育委員会の大事業ですので、ご意見を今後ともよろしくお願いします。それではもう少し報告事項があるのですが、ここで休憩を10分ほど取りたいと思います。

(休憩)

久山教育長 それでは、次に、給食費の公会計化です。今、給食費は全て学校で会計をしているわけですが、これを市役所で一括して会計をしていく。公会計化というのは、よく間違えられるのですが、公費負担ではないです。公費負担ではなくて会計をどこがするかというだけです。そういうことが動いています。これは国の指針にもありまして、それに従って準備を進めていっている状況です。

上岡委員 働き方改革ですね。

久山教育長 そうです。平成4年度からできるようにということで、今、色々と進めているところです。

次に、昨年1月の教育委員会で、総優賞に関して議論があったようです。今は、小中学校19校それぞれの学校で1名ずつ優秀な生徒を選び、2月に表彰していますが、その時のこの教育委員会の議論では、大規模校も小規模校も一人ずつというのはバランスが悪いのではないかと。大規模校では2～3人と規模に応じた人数にしたら良いのではないかという意見が出たようです。それに関して教育委員会の事務局の中でも話をしました。私は東中で教員をしていました。大規模校で複数選ぶ方が難しいと思います。1人選ぶのも結構考えます。そういう意味では1人ずつが良いのかと思います。複数出したいと言われるのは多分小規模校の方だと思います。例えば6年生が2人しかいないと、この子を選ぶともう一人の子はというような場合もあります。そういうこともあるから基本は1人で該当者なしということも有り得ると思います。そのくらいの方が僕は良いのではないかと思います。

大山委員 そうですね。

久山教育長 これは今後の議論で、ここで必ず決めないといけないことではないので、そういうことです。

後は先程二宮金次郎さんの話が出ましたが、議会で戦没者教育ができていないのではないかとご質問がありました。それに関して検討するというような返答をしています。市長も総合教育会議を開いて協議するとか、かなり大きな話をしています。実際に今しているのは、東中の社会科の教員にこういう教育を授業の中でするとしたらどういうやり方ができるかを考えてもらっています。小学校の方にも考えてもらおうと思っています。これは物凄く政治的なことが絡んでくるので難しい問題で、何でもかんでもはできません。教科書

を読んでみましたら凄く平面的な捉えです。戦争という事実があって何人亡くなって民間人が何人で兵隊さんが何人。こういうように非常に平面的な事実だけを伝えるような教育です。中学校では、2年生で広島研修、3年生で修学旅行のときにかなり深めていきます。社会科の教育としてではなくて行事と合わせて深めていくという、心情にも入っていくようなやり方をしています。社会科の授業の中で戦争をどう捉えていくかという大きな問題だと思しますので、そういうことも議会で話題になっています。それも研究していくという状況を知っておいていただきたいと思います。

児島委員 高梁市は偉人教育で本を出しています。どなたか多分教育委員会にいらっしゃったのか昔学校の先生をされていたのか、その人が文章を書いて、それを冊子にしてそれを学校教育に使っておられます。

久山教育長 それは戦争に関してですか。

児島委員 戦争ではなく偉人教育です。

久山教育長 偉人教育。なるほど。

児島委員 やはり総社市に生まれて育って総社市にどういう人がいたか。さっきお話ししましたけれど、雪舟の生まれたところなのにそんなものが何処にもない、あなたのところは何をやっているのというようなことを言われる場合もあります。それで誕生の地を一生懸命整備しているだろうと思います。総社市には偉人と言われる人たちが一杯います。

上岡委員 先生、ちょっと対意見ごめんなさい。その本ができています。平成5年に「誇りに思う人々」で自然編とか何とか色々ありますけれど、それを使い切れていないです。あれを雪舟なら雪舟だけ抜き出してパンフレットにするとか。使えてないだけの話です。

久山教育長 そういう本はあります。

児島委員 うちにもあります。本棚に飾ってあります。

久山教育長 そうすることで、もっと活用しないといけないと思います。その本も議会で紹介しました。そうしたら議員さんが貰えないかと言って何人か来られました。当時作ったときには議員さん方に配ったようです。

上岡委員 変わっていますからね。

久山教育長 議員さんが変わっていますから。

児島委員 あのシリーズが5冊くらいあります。

久山教育長 報告事項は以上でございます。

上岡委員 時間を2分いただいて良いですか。

久山教育長 はい。

上岡委員 調べていただきたいのですが、次のときに課長さん、教えてください。総社市の保育士の離職率です。民間の全国の離職率は12.0%ですが総社市はどうかということ、処遇改善が進んでいるのかどうか。厚労省が出している平成30年度の賃金構造基本統計があるのですが、それでは全国平均が年収358万円です。総社市はそれより上なのか下なのか。どこで比べるかが難しいのですけれど、年齢をどこでとるのか。平均7年で

保育士は辞めたり変わったりしているので、そこでみるのが良いのかと。そうしたらもっと下がります。300万いかないです。そこで比べて、どこかで区切ってどうなのか見ていただければありがたいです。

久山教育長 その他、何かありませんか。

(質疑なし)

久山教育長 それではこれで報告事項は終わります。

それでは、次回の教育委員会の日程ですが、11月26日(木)午前9時30分から開催いたしますので、ご参集願います。

次に、12月の教育委員会の日程を調整いたしたいと思いますが、事務局から提案願います。

*** 12月の教育委員会について日程調整***

久山教育長 それでは、12月の教育委員会は、12月24日午前9時30分から開催いたします。

これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

【開会 午前11時07分】

上記記録している内容は、正確であるので署名する。

令和 年 月 日

教育長

委員

職員